

## 序論

公益社団法人日本経済研究センターの調査によると、日本の研究開発投資（R&D投資）は諸外国に比べ高い水準にあるものの、中国や韓国では急増しているのに対し近年は横ばいで推移<sup>[1]</sup>している。

今回のポスター発表にあたり、世界最大の生物医学研究助成機関、米国立衛生研究所（NIH）の助成金を例として状況の分析を行った。

NIHの資金提供プロジェクトのデータベースRePORTERによると、過去3年間に米国外の1,432のプロジェクトに合計6億2400万ドルが提供されていたが、この中には日本の研究者への割り当てはなかった。<sup>[2]</sup>

女性研究者を含む日本人研究者へのNIH資金提供の欠如は、国際的な認知における潜在的なギャップを表している。専門知識、国際共同研究の経験、現実的な獲得の可能性などといった要素が、国際的な資金調達に成功に影響すると感じているのかもしれない。容易に入手できる情報・ノウハウ・ツールは、そのような懸念を和らげるのに役立つかもしれない。

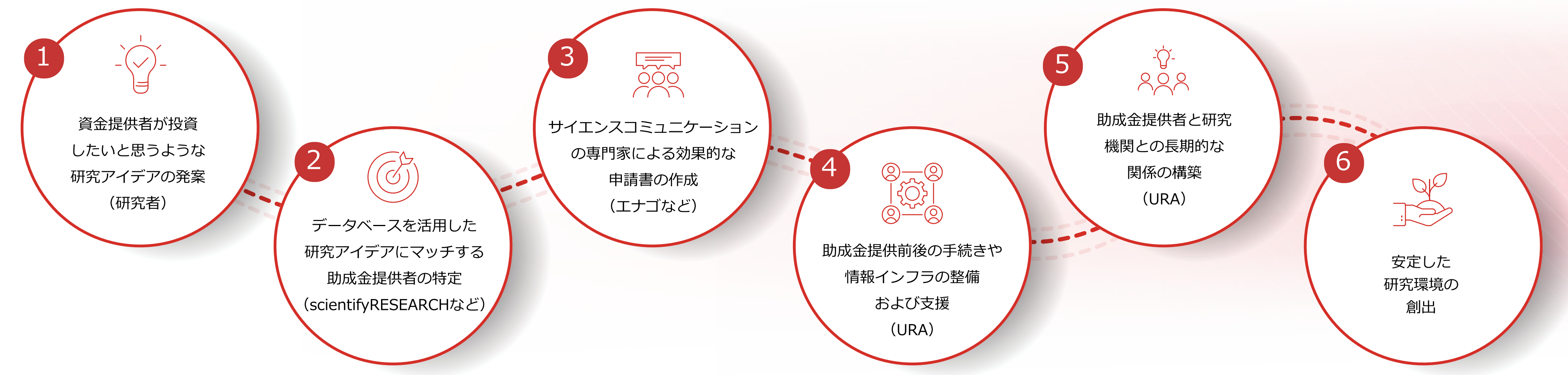
## 問題解決のための対策案

日本の研究に対する  
国際的な研究助成金の増額

URA及び研究者による国際的な研究助成金  
情報へのアクセスのしやすさを改善

国際ネットワークの促進・活性化

## 研究助成金獲得へのステップ



## 方法

以下2つのデータソースの分析を行った。

- エナゴが実施した日本の研究者対象の調査データ（n = 225）
- scientifyRESEARCHの国際研究資金データ



### A. エナゴによるアンケート調査方法

- 研究資金に関する意識調査を1つの目的としたオンラインアンケートを実施<sup>[3]</sup>
- 調査期間：2022年10月28日から2023年1月10日
- 研究者、学生、学術関係者へのメール配信とソーシャルメディアへの投稿を通じて告知
- 研究者、学生、ジャーナルの編集者、出版関係者を含む幅広い属性の対象者から回答を収集

### B. scientifyRESEARCHのデータを用いた調査方法

- scientifyRESEARCHのデータベースで2024年6月時点で入手可能なすべての助成金提供者と資金獲得の機会を抽出
- 日本が資金提供対象国に含まれるデータの絞り込み
- 2の小集団の分析  
a. 国際共同研究に対する助成の割合  
b. 女性研究者に対する助成の割合

## 結果

### A. エナゴアカデミーの調査結果(図1):

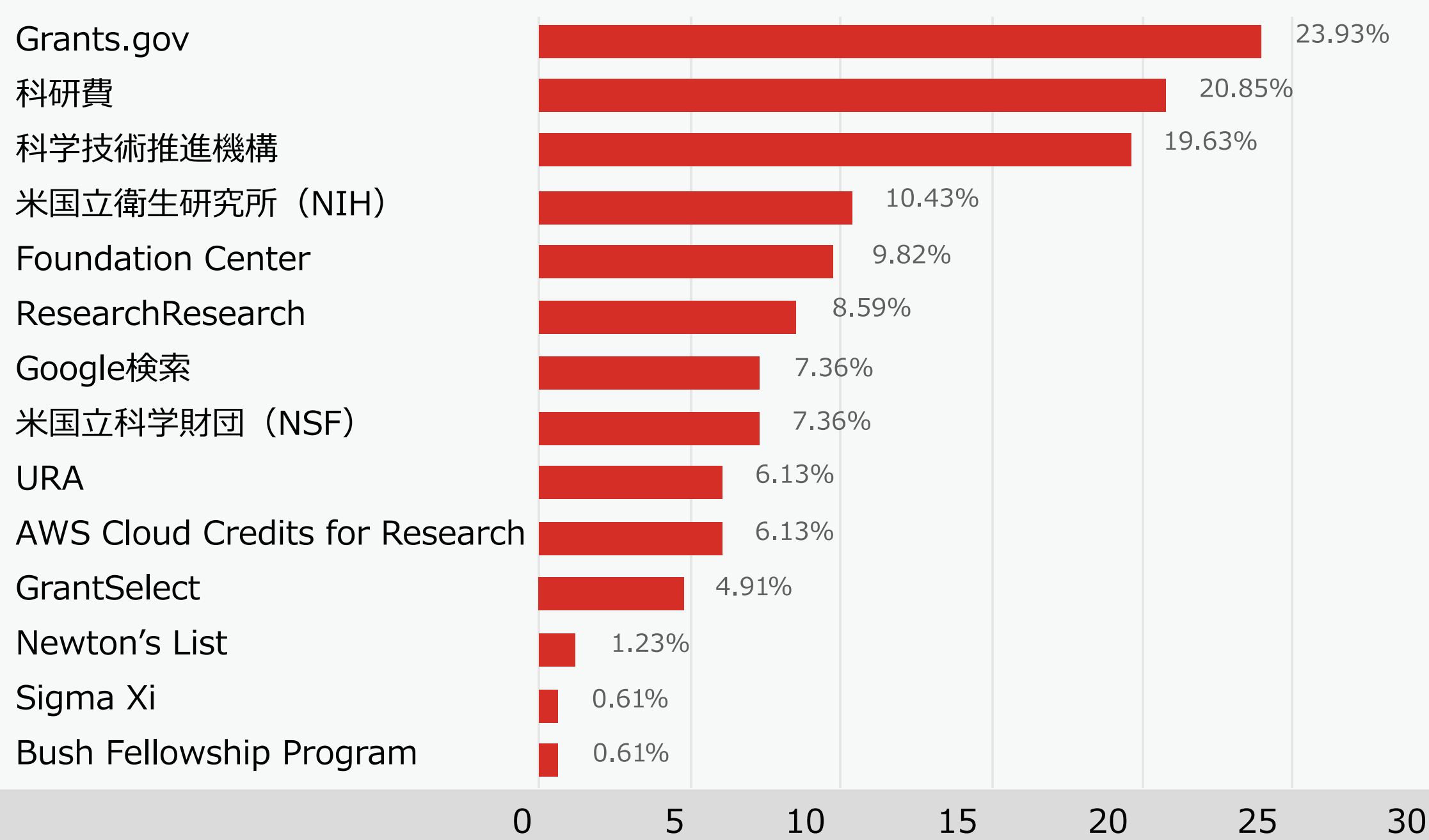
回答数：99の大学・機関に所属する計225名の日本人研究者

質問：利用可能な研究助成金について、どのように調べていますか？

主な結果：ほとんどの研究者が、助成金提供者のウェブサイト（特にgrants.govや科研費のウェブサイト）にアクセスし、利用可能な助成金を検索している。

推論：Grants.govの情報は構造化されていないため、関連する機会の特定は困難。Grants.govを利用する研究者が助成金検索の仕組みの改善を求めている事実を考慮すると、URAはこのプロセス合理化の上で重要な役割を果たすことが期待される。

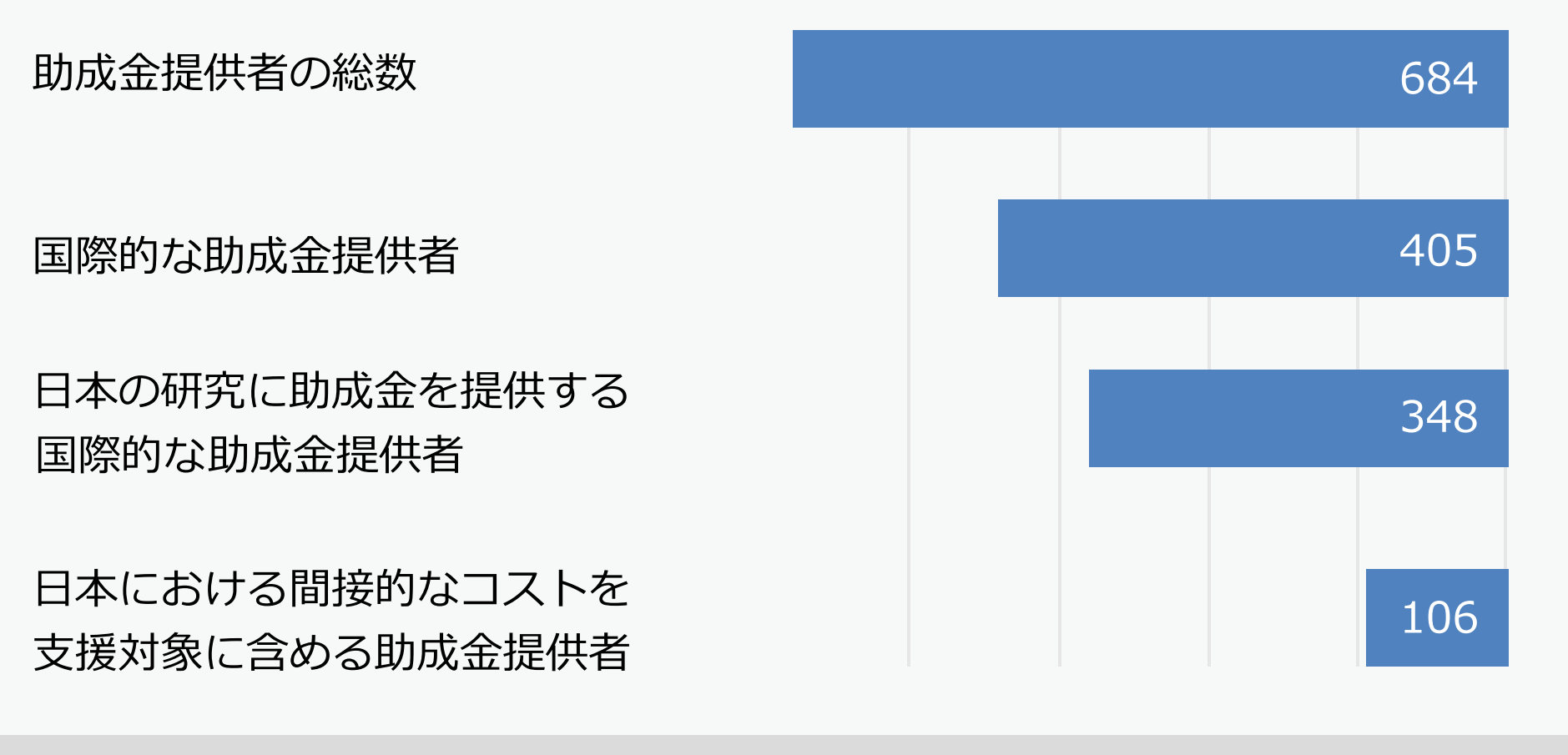
図1  
利用可能な研究助成金について、どのように調べていますか？(複数回答可)



### B. scientifyRESEARCHの調査結果:

- 調査した684の国際的な助成金提供者のうち、60%近くが国外でのプロジェクトに資金を提供、あるいは流動性のある資金を提供しているが、同一の助成金提供者のすべての助成金が日本の研究者が対象となるわけではない。
- 684の助成金のうち約60%（405）は日本の研究者にも獲得可能（図2）。国際的な助成金提供者（405）の内80%（328）は日本を助成金提供の対象国に含む。

図2  
684の助成金のうち約60%（405）は日本の研究者にも獲得可能



**国際共同研究に対する助成の割合:**  
684のうち35の助成金提供者が、日本が拠点の研究者にも助成プログラムの門戸を開いている（図3）。

**女性研究者に対する助成の割合:**  
28の助成金提供者が、日本の研究者を含む女性研究者のために特化したプログラムを設けている（図4）。

図3  
35の助成金提供者が日本の研究者との国際共同研究を支援

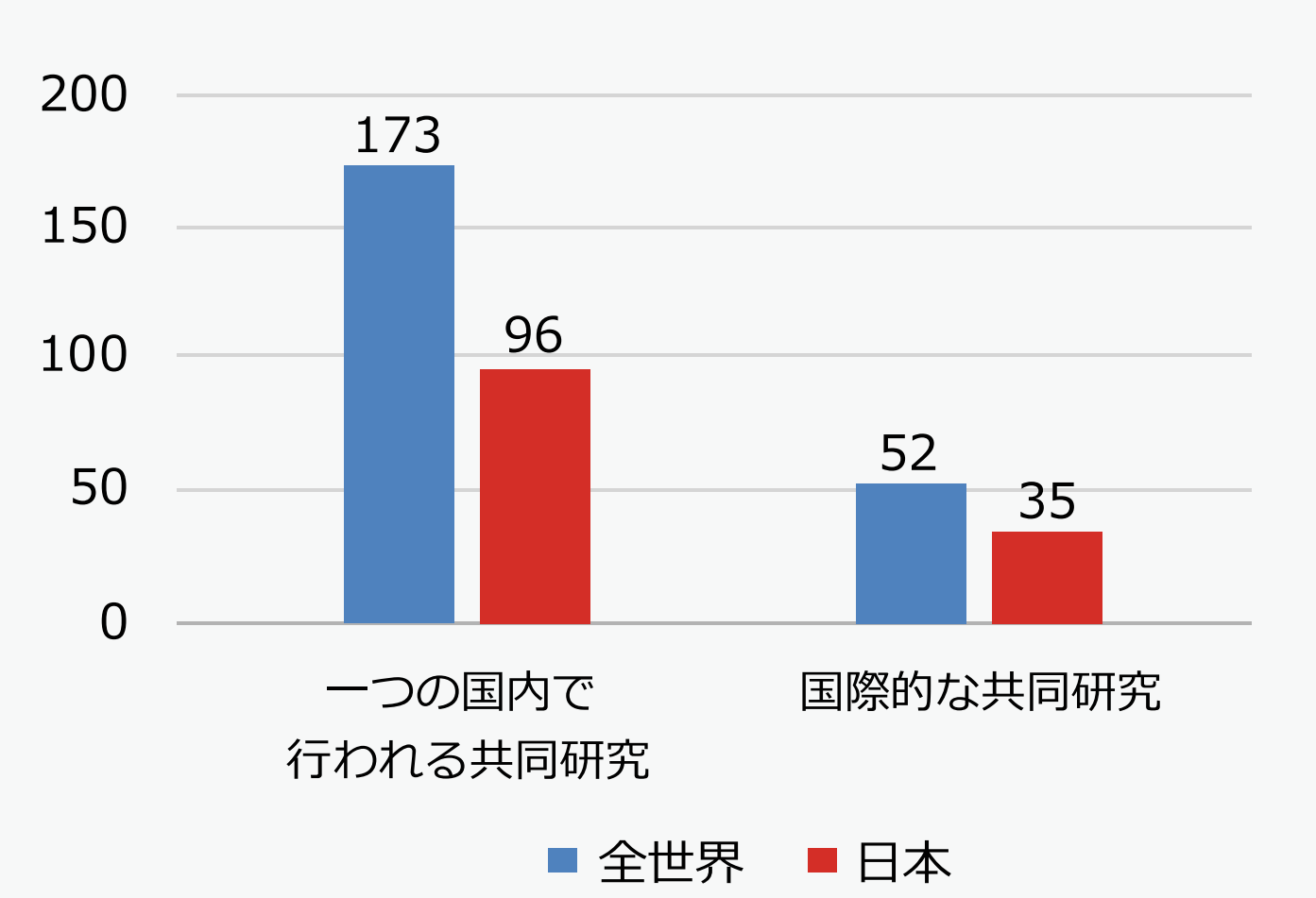
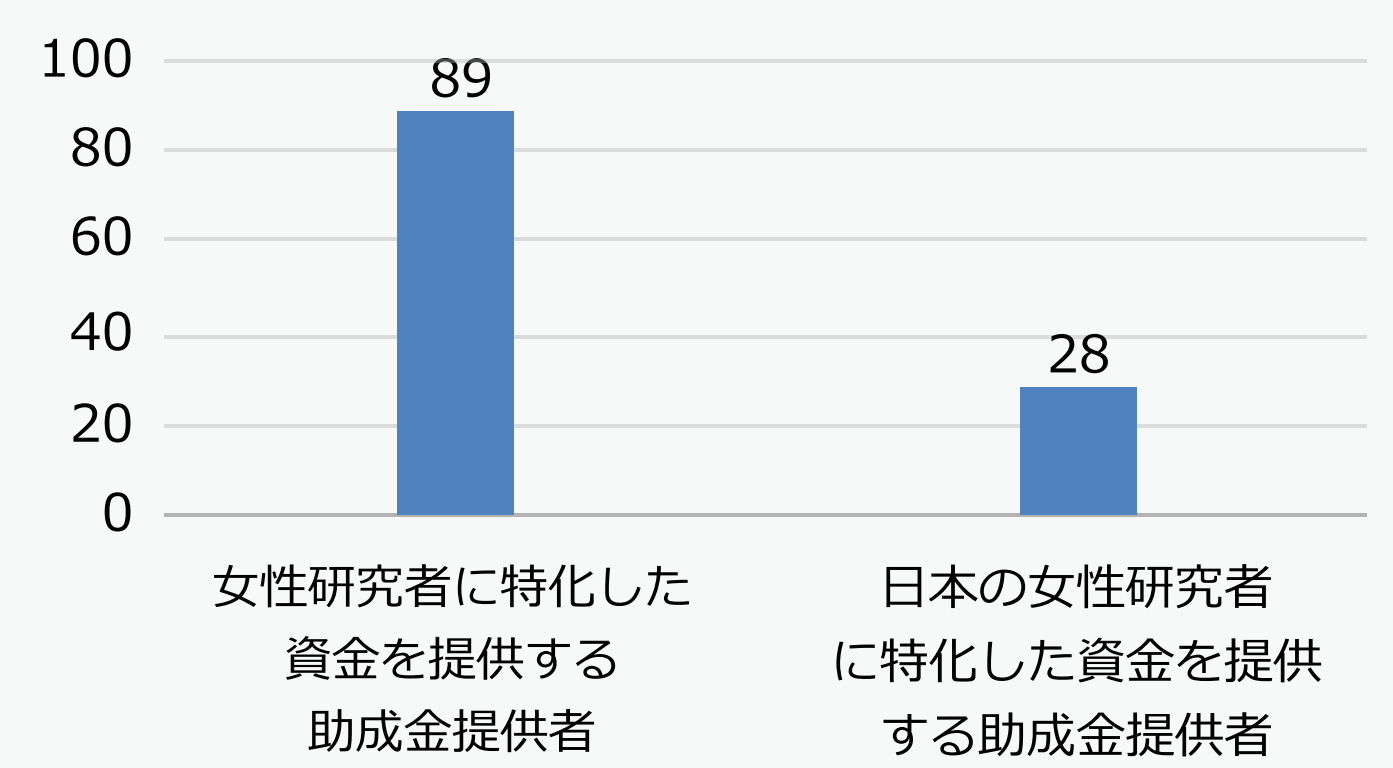


図4  
女性研究者に対して資金を提供する助成金提供者



## 考察

### 現在の課題:

- 研究助成金獲得の機会の効果的な洗い出し・管理の手法の欠如
- ミスが起きかねない手作業による管理（例：スプレッドシートでの管理など）
- 女性研究者を含む日本人研究者のための助成金獲得の機会喪失

### 必要な対応:

- 専門的なパートナーによる技術面と戦略面でのサポート
- URAによる研究者のデジタルツール利用の促進
- URAの個別サポート、トレーニング、および積極的な関与による作業効率の向上

### 必要とされる包括的サポート:

- ステップごとに必要なサポートの提供
- 助成金提供者の要求に合わせた申請書の作成
- 助成金提供者との強固な関係の構築
- 助成金獲得後の効果的な管理体制の構築

### アプローチ:

- デジタルツールの導入と活用、管理業務の支援、組織レベルの協調
- 助成プログラムの特定から助成金獲得後の管理まで、各プロセスをサポート
- 研究の成功と持続可能性の向上
- 女性研究者を考慮した、より包括的な助成金獲得機会の提供

## 本調査の限界

### 1-エナゴのアンケート調査の限界:

日本の広範で多用な研究状況全体を反映しておらず、サンプル数が限られている。

### 2- scientifyRESEARCHデータベースの限界:

2024年6月時点のデータは、国際的な資金提供の機会や利用可能な助成金の全情報を網羅しておらず、世界のその他の助成金を見逃している可能性は捨てきれない。

### 3- アクセシビリティの限界:

本調査は、全ての研究機関で誰もがデジタルツールやデータベースに簡単にアクセスできるという仮定に基づいている。また、研究者の習熟度のばらつきも、解決策の一般化に影響を与える可能性がある。

## 将来の研究への提言

- 包括的調査：今後の調査において、今回の調査結果をより確かなものとするために、多様な日本人研究者を対象により大規模な調査やインタビューを実施し、国際的な研究助成金獲得のための課題に対する理解を深めることを提案する。
- 機関による支援：研究機関の支援体制やポリシーが、研究者の国際的な助成金獲得の成功に与える影響に関する調査を実施する。この調査には、研究管理者の役割、管理業務の支援、組織的インセンティブの評価も含まれる。
- 国際共同研究：効果的な連携が助成金獲得の結果や研究の質に与える影響に焦点を当て、国際的な協力関係が助成金の獲得にどのように影響するかを調査する。

## 結論

国際的な研究助成金を日本の研究者は十分に活用できていないのが現状。日本で長期的に持続可能な研究を推進するためには、戦略的かつ積極的なアプローチと能力育成が不可欠である。

助成金獲得の可能性を最大化するために、URAは、すべての関係者をまとめるという戦略的に重要な役割を担っている。日本の大学がURAを支援し、その役割をより大きくすることを提唱する。

## 提案

序論で示したNIHからの助成金をうまく活用するオーストラリア、カナダ、英国の研究者たちのように国際的な助成金獲得を成功させるために求められること:

- 研究者の専門性に合わせた資金源特定方法の合理化
- 助成金申請書作成や申請プロセスに対する体系的なサポート
- 助成金獲得後の管理支援

### URA への提言

- 国際的な助成金獲得のための専任のリサーチ・アドミニストレーター職の創出
- ベスト・プラクティス・ツールの拡充と共有
- 国際的な助成金申請書の書き方、交渉スキル、助成金提供機関との効果的なコミュニケーションに関するワークショップへの参加

## 参考文献

- [1] Saito, J. (n.d.). Performance of Japan's R&D. Japan Center for Economic Research. [www.jcer.or.jp/english/performance-of-japans-rd](http://www.jcer.or.jp/english/performance-of-japans-rd)
- [2] National Institutes of Health. (n.d.). NIH RePORTER. [reporter.nih.gov/](https://reporter.nih.gov/)
- [3] 研究資金、オープンアクセス出版に関する意識と"Pay-to-Publish"モデルに対する意識調査

## 謝辞

本発表は、scientifyRESEARCHの共同創立者Kate Gardner氏と研究支援エナゴのスタッフとの共同作業により実現いたしました。筑波大学研究マネジメント室主任研究員・研究コーディネーター陳晨氏に貴重なコメントをいただき感謝申し上げます。



### 本発表に関する連絡先

クリムゾンインタラクティブ・ジャパン  
勝間田マハディ  
enago@crimsonjapan.co.jp